

施策項目9

健康教育・食育の充実

施策の方向性 ～10年後を見据えて～

- 健康教育・食育の充実に向けた PDCA サイクルへの支援、ICT を活用した個に応じた指導の推進、実践研究及び好事例の発信などを通じて、望ましい生活習慣・食習慣の定着など、生涯にわたって心身共に健康な生活を送るための資質・能力（健康リテラシー*等）の育成を図ります。
- 健康教育や食育に係る研修会の開催や指導助言体制の改善、リーダー育成システム*の構築を通じて、中核的な役割を果たす養護教諭・栄養教諭の指導力の向上を図ります。
- 専門家等と連携した学校保健委員会*の活性化、ICT を活用した家庭・地域との連携強化、子どもの食に関する体験や学校給食等を活用した持続可能な食を支える食育を通じて、学校・家庭・地域が一体となった子どもたちの健康づくりの充実を図ります。

主な取組

- **健康・安全・食に関する資質・能力（健康リテラシー等）の育成**
 - ・ 健康や食に関わる実態調査などのエビデンスに基づく「学校保健計画」及び「食に関する指導の全体計画」の作成及び PDCA サイクル実施に向けた支援
 - ・ 子どもたちが他者と協働し、主体的に課題解決に取り組むための ICT を活用した効果的な指導の推進
 - ・ 望ましい生活習慣・食習慣の定着や心の健康をテーマとした実践研究及び好事例の発信
- **健康教育・食育推進の中核的な役割を果たす養護教諭・栄養教諭の指導力の向上**
 - ・ 健康教育や食育に係る研修会の開催及び学校等への指導助言体制の改善
 - ・ 健康リテラシー等を育成する授業実践及び個別指導への支援
 - ・ 各地域における養護教諭・栄養教諭のリーダー育成システムの構築
- **学校・家庭・地域が一体となった子どもたちの健康づくりの充実**
 - ・ 学校医や保健師等の専門家や保護者の代表などの参加による学校保健委員会の活性化
 - ・ ICT を活用した情報発信及び双方向性を活かした家庭・地域との連携強化
 - ・ クリーン農産物・有機農産物を含む地場産物を使用した安全・安心な学校給食、子どもの食に関する体験等を通じた、食品ロスの削減及び食文化の伝承等の持続可能な食を支える食育の推進

関連する主な SDGs の目標



学校保健委員会のイメージ

学校の教職員、学校医、保護者、児童生徒、地域の人々らが集まり、児童生徒等の心身の健康課題等について協議します。

< 議題の具体例 >

- ・学校保健計画の実施、評価に関する反省やまとめ
- ・健康診断の実施及び結果の事後措置
- ・生活習慣病などを予防するための食生活
- ・子どものメンタルヘルスの理解とその対応
- ・家庭や地域で取り組む体力づくり
- ・インフルエンザの予防と手洗いやうがいの励行



< 構成例 >

教職員代表	校長、教頭、保健主事、養護教諭等
児童生徒代表	児童生徒会会長、児童生徒会保健委員等
保護者代表	P T A 役員、各学年委員長、保健委員等
指導・助言者	学校医、学校歯科医、学校薬剤師等
関係機関代表	教育委員会、保健所、市町村保健衛生係等
地域の人々	町内会関係者、商店、企業等



- ・自他の健康課題の発見や解決に向けた取組による自己変容を確認するための ICT の効果的な活用の推進
- ・ICT の双方向性を活かした家庭、地域への情報発信や取組状況の把握など効果的な活用の推進

【推進指標】

指 標	現状値	目標値(R9)
「朝食を毎日食べている」と回答した小学校 6 年生、中学校 3 年生の割合	小 81.5%, 中 77.4% (R4)	100%
健康教育に係る研修会に参加した学校の割合	20.6% (R3)	毎年度 33.3% 以上
学校保健委員会に学校外の委員が出席した学校の割合	45.0% (R3)	100%
学校給食における地場産物の使用率	48.2% (R3)	50.0%
栄養教諭による食に関する指導の平均取組回数	小 1.6 回, 中 1.2 回 (R3)	12 回



担当課 HP

●健康リテラシー

健康に関する情報を入手し、理解し、評価して活用するための能力。

●リーダー育成システム

広域分散型の本道において、ブロック等各地域で健康教育を推進する中心的役割を担う養護教諭・栄養教諭をリーダーに指定し、実践研究やその成果の普及及び初任養護教諭等の指導等を行う取組。

●学校保健委員会

学校保健の関係者（管理職、養護教諭や栄養教諭等の学校保健担当教職員、学校医、学校歯科医、学校薬剤師、保護者・児童生徒代表、地域の保健関係機関の代表等）で、学校における健康に関する課題を研究協議し、健康づくりを推進するための組織。